

道

2022・1・12

通信 No 1665



フユシラズ

《本日の予定》総会 6時～8時 練習隊形で椅子に着席下さい

《次回から練習開始》

1月19日(水) 6時～8時 清水先生・小坂先生 場所 吉野町プラザホール

練習曲 赤いサラファン(プリント)、カリンカ(1集20頁)、シベリアの密林で(4集38頁)

「囚人の歌、遭役刑囚の歌」

T 岡田紀久生

この自粛期間に身辺整理をやっていた時、古い手紙束の中から見慣れない、名も知らない人からの一通の茶封筒が出てきた。「誰からだろう」と封書を開いてみると、ただ「モンタンチケットお送りします。」の一文のみ。途端に60年前の景色が蘇ってきた。

イブ・モンタンのソ連演奏旅行の記録「シャンソン・ド・パリ」が封切られたのは今から63年前の1958年12月。京橋にあったテアトル東京。高校生であった私も大スクリーンの中のモンタンに夢中になったのは当然であった。歌声喫茶全盛の時代でもあり彼の「遭役刑囚の歌」は皆でよく歌っていたのである。そしてそのモンタンの来日公演が一年後と発表され有頂天になりチケット売り出しの前の晩から池袋西武のプレイガイドの列に加わったのである。手にしたお札は五百円札一枚。一番安い席である。暮れの押し迫る池袋の西武前はシャンソンファンの長蛇の列。寒さに震えながら翌朝の10時の開店を待っている。私の前にいるのは三、四十代の見知らぬ男性。いつしかモンタンの話などしながら夜明けを待っている。師走の夜も明け九時過ぎた頃、切符販売開始が早められ一同ほっとするが、やがて500円切符は売り切れとの情報が入りどっと落胆！寒さひもじさにこらえ、一晩並んだのになんということと怒りもひとしおである。手持ちは五百円札と小銭のみ。と、その時「ボク！お金を貸してあげるよ」と千円札を前列の男性。一晩寒空に並んだ連帯感からだろうがその一言に舞い上がらんばかりになった。地獄に仏のたとえそのものである。

チケットはその方に預け、後日千円郵送し自分の手元に届いたのがその茶封筒だったのだ。好事魔多しと言うが来日公演は急遽中止となりまたもや地獄！！

モンタン公演はその後30年後に県民ホールで実現したのである。開幕まで30年、まことに長いながーいインターバルであった。

なおお金を貸してくれた方には、「覚えていますか。モンタンのこと」と記し投函したが「宛所不明」の朱印が押され返送されて来たのはこの夏(2021年)のこと。

今も「囚人の歌」を歌うと思いだされてくるメモワール、青春の一風景である。

会議予定 1月19日(水) 午後3～5時
企画選曲委員会於県民サポートセンター
(清水先生、小坂先生出席予定)

「中山英雄 Last Lesson」コンサートのDVDの注文を受け付けます。1部1,500円。1月19日締切りでお願いします。今月中にお渡しできるよう調整中です。
元団員等、お誘いした方で必要な方がいましたら取りまとめていただくとありがたいです。(石田)